

日本実務教育学会
The Japan Society for Professional Education Research

第4回大会プログラム

2024年6月23日（日）

常葉大学

日本実務教育学会第4回大会実行委員会

日本実務教育学会第4回大会の開催にあたって

青葉の候、会員の皆さまにおかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。日本実務教育学会 第4回学術大会を2024年6月23日（日）に常葉大学静岡草薙キャンパスにて開催いたします。今大会は対面形式にて実施され、これまで口頭発表のみとしていた自由研究発表にポスター発表を新設しました。これは、発表者のみでは結論までは至らないものの、参加者とのディスカッションによって研究が推進されることを目的としています。大会実行委員会にて審議の上、口頭発表22本、ポスター発表6本を受理させていただきました。ぜひ参加者の皆様にはご興味に応じて部会へご参集ください。

また、本学会大会では、自由研究発表以外にも基調講演やシンポジウムがおこなわれます。進行に名古屋産業大学 今永典秀 准教授、演者に社会構想大学院大学 川山竜二 教授、名古屋市立大学 鶴飼宏成 教授をお迎えして、『実務家に求められる教育力、教育者に求められる実務力』についてディスカッションしていただく予定です。自由研究発表の各報告のタイトルと内容、シンポジウムの趣旨につきましては大会プログラムをご参照下さい。

本学会は、昨年度まで社会構想大学院大学の実務家教員COEプロジェクト（文部科学省「持続的な産学共同人材育成システム構築事業」）の一環として運営されてきましたが、令和6年度より任意団体として自主運営していくこととなりました（日本学術会議協力学術研究団体へ申請予定）。本学会は運営体制に特徴があり、第4回大会実行委員会においては全員が実務家または実務経験を有する大学教員によって構成されています。本学会大会では発表のみならず、情報交換の場としてもご利用いただけます。

会員の皆さまの研究推進に寄与できるよう大会運営に全力を尽くす所存でございます。大会実行委員一同、多くのご参加を心よりお待ちしております。

第4回大会実行委員会委員長

中井 真悟

（常葉大学 健康プロデュース学部）

大会案内

1. 大会日程

- 2024年6月23日（日）

2. 実施スケジュール【すべて対面形式】

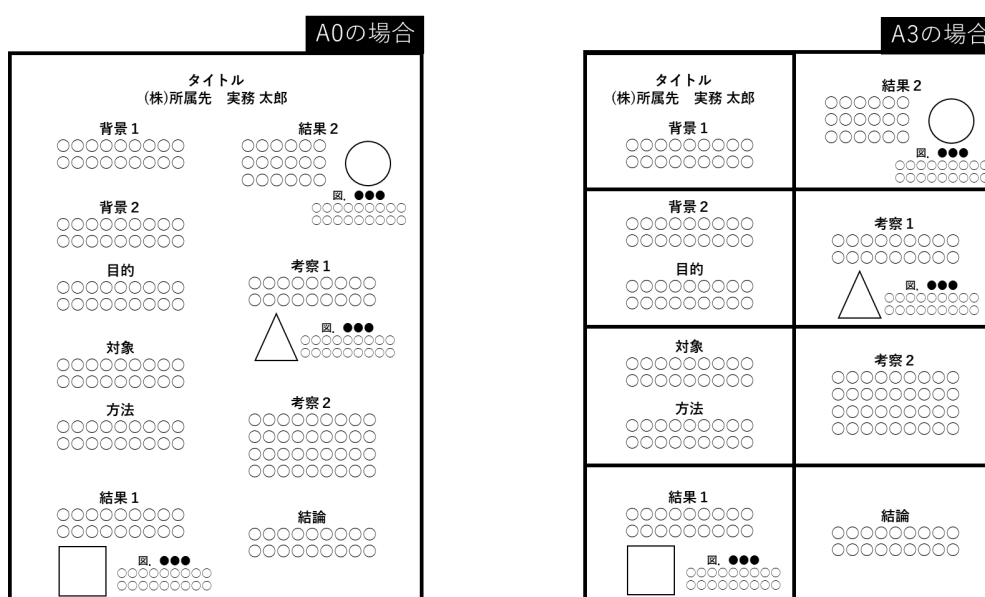
- 9時15分～ 受付開始
- 9時50分～10時00分 開会
開会の挨拶 五十嵐 篤 先生（アンドリッツ・ファブリック&ロール株式会社）
- 10時00分～10時50分（50分） 基調講演
＜テーマ＞ 実務教育学とは何か
＜登壇者＞ 川山 竜二 先生（社会構想大学院大学）
＜司 会＞ 岩出 朋子先生（リクルートワークス研究所）
【休憩10分】
- 11時00分～13時00分（120分） 自由研究発表
- 13時00分～13時55分（55分） 昼休憩 兼 ポスター発表
【休憩5分】
- 14時00分～14時30分（30分） 総会
【休憩5分】
- 14時35分～15時50分（75分） シンポジウム
＜テーマ＞ 実務家に求められる教育力、教育者に求められる実務力
＜シンポジスト＞ 鶴飼 宏成 先生（名古屋市立大学）、川山 竜二 先生（社会構想大学院大学）
＜進行＞ 今永 典秀 先生（名古屋産業大学）
- 15時50分～16時00分 閉会
閉会の挨拶 田中 稔哉 先生（株式会社日本マンパワー）
- 16時30分～ 懇親会

3. 大会参加方法

- 大会への参加をご希望される方は下記 URL よりお申し込みください。
<https://jsper.coep.jp/convention/>
- 大会に参加される方は、以下に記載の金額を 6月11日（金）までにお支払いください。
 - 会員（正会員・仮会員）、かつ大会当日の**懇親会に参加をされる方** 9,000 円
 - 会員（正会員・仮会員）、かつ大会当日の**懇親会に参加をしない方** 5,000 円
 - 非会員、かつ大会当日の**懇親会に参加をされる方** 14,000 円
 - 非会員、かつ大会当日の**懇親会に参加をしない方** 10,000 円
- 大会は対面形式にて実施します。

4. 自由研究発表要領等

口頭発表	ポスター発表
【主旨】 <u>一定の結論が示せるもの</u> （報告・提案含）	【主旨】 結論までは至らないがディスカッションによって <u>研究が推進されるもの</u>
【対象】 主に、 <u>教員・研究者・実務家</u> を想定	【対象】 主に、 <u>大学院生・初学者</u> を想定
【発表】 ① スライド8～10枚程度 ② 校閲 <u>あり</u> ③ プログラム上に <u>演題・要旨</u> を掲載する ④ 発表10分、質疑応答5分	【発表】 ① A0用紙×1枚 or A3用紙×8枚 ② 校閲 <u>なし</u> ③ プログラム上に <u>演題のみ</u> を掲載する ④ 発表30分（ポスター前）



※ A3×8枚でA0サイズになります。
 ※ 10枚でもOKです

図. ポスター例

- 発表者がやむをえない理由により欠席する場合には、速やかに学会事務局（jsper@coep.jp）までメールでご連絡ください。なお、その場合、発表時間と発表の順番の繰り上げは行わず、司会者または座長の判断により、休憩または討議の時間に当てます。

5. 発表要旨集録

- 『発表要旨集録』は大会参加者の方を限定に、データで配布いたします。

6. 問合せ先

大会に関してご不明な点がございましたら、学会事務局までご連絡ください。

MAIL : jsper@coep.jp

基調講演
実務教育学とは何か (A309教室)
登壇者：川山竜二 先生

【趣旨】

登壇者である川山先生は、現代社会は産業のグローバル化やデジタル化によって様々な課題に対応するための知識やスキルを必要としており、実務家教員が持つ実践的な知識や経験を新たな知識の形式に変換することが重要であると述べています（事業構想, 2023.7）。このことは、実務経験から理論を構築して、その理論を実務へ援用することの重要性を示しています。近年の「実践の理論」や「実務教育学」と呼ばれる領域ですが、その対象や範囲、実際に運用していくための方法論については未だ不明瞭といえます。本講演では、「実務教育学」について川山先生にわかりやすく解説していただいた上で、期待される社会的意義や現在残されている課題についても提起していただきます。実務教育学とは何か、闊達な議論が期待されます。

【登壇者プロフィール】

川山竜二 先生



社会構想大学院大学 学監 兼 実務教育研究科長、武蔵野大学大学院法学研究科客員教授、日本実務教育学会副会長を担う。また、文部科学省実務家教員COEプログラム（事業構想大学院大学、社会構想大学院大学、日本女子大学、武蔵野大学との共同事業）の責任者を務めた。

専門学校から予備校まで様々な現場にて教鞭を執る実績をもつ。現在は、「社会動向と知の関係性」から専門職大学、実務家教員養成の制度設計に関する研究と助言も多数おこなっている。さらに、教育事業に関する新規事業開発や研究施設等の広報活動について科学コミュニケーションの観点からアドバイスを行う。



専門分野：知識社会学、高等教育論、社会システム論

QRコード：リサーチマップ

自由研究発表Ⅰ

—教育実践—

座長：岩出 朋子 先生（リクルートワークス研究所）

（A309教室：11時00分～13時00分）

- ① 社会人大学院生における研究手法としての「オートエスノグラフィー」の検討
高広 伯彦（社会構想大学院大学）
- ② インターンシップコーディネーターに求められる要素の考察 —参加学生に対する追跡アンケート調査より—
今永 典秀（名古屋産業大学）
- ③ キャリア教育におけるプロティアン・キャリアの可視化 —複数の社会人との対話を活かした地方国立大学における教育実践の意義と課題—
五十嵐 篤（アンドリッツ・ファブリック&ロール株式会社）・
樋口 健（新潟大学教育基盤機構准教授／非会員）
- ④ 専門職大学院で社会人はどのように理論と実践を架橋しているのか？ —社会構想大学院大学の修了生を対象とした「ダブルループ型学習」に関する考察—
挽野 元（社会構想大学院大学）・近 咲子（社会構想大学院大学／非会員）・
戸倉宏（社会構想大学院大学／非会員）・富井久義（社会構想大学院大学）
- ⑤ 専門職大学院で社会人はどのように学んでいるか —社会構想大学院大学の在籍学生を対象とした学習時間に関する調査からの考察—
山口 圭治（社会構想大学院大学）・堀田 雅夫（社会構想大学院大学／非会員）・
江沼 英篤（社会構想大学院大学）・鹿江 美沙（社会構想大学院大学／非会員）・
富井 久義（社会構想大学院大学）
- ⑥ 大学生世代を対象とした「対話を紡ぐ力」の能力養成に関する手法研究 —「Weaving Dialogue Development」実践の効果検証—
佐藤 宏樹（社会構想大学院大学 / 東京工科大学）
- ⑦ 日本語教育実践における「適切な指導計画を立てることができる」能力の習得を支えるものは何か —チームティーチングにおける進捗表に注目して—
濱田 礼子（株式会社高度外国人支援機構）
- ⑧ キャリア教育における学習動機づけの向上を促す授業モデル開発 —学部横断のキャリア・コミュニティの構築を試みる、初回講義の設計—
中山 隆（宮崎大学）

自由研究発表Ⅱ

—実務実践—

座長：岡部 知行 先生（NPO法人 リスク共生社会推進センター）

（A305教室：11時00分～12時45分）

- ① 日本のレコード会社に属するA&Rの分業化に関する考察 –日本のA&Rと海外のA&Rの違い–
米田 英智（社会構想大学院大学）
- ② 持続的成長と学びの統合モデルとそのメカニズム –推進に必要な4つのエンジンと4つの力のスパイラル–
森 俊輔（株式会社Holomuakala）
- ③ 客室乗務員（CA）はどのようにチームを作り上げているのか –フライトにおける実践–
内田 尋巳（社会構想大学院大学）
- ④ ミドル期のキャリア・プラトー現象がキャリア形成に与える影響 –A社の事例から–
大村 敦子（NTTデータマネジメントサービス株式会社）
- ⑤ 現代の若年就業者意識からリアリティ・ショックの多様性の考察
上田 敏博（社会構想大学院大学 実務教育研究科 研究生）
- ⑥ システムエンジニアに求められるロジック構築力などの修得 –囲碁における先読み力の習得とそれを通じた思考の学びの効果–
田村 一彦（社会構想大学院大学）
- ⑦ 電話対応の実践における学びの共有プロセスに関する考察
森田 敦子（社会構想大学院大学（研究生））

自由研究発表Ⅲ

—実践知—

座長：中井 真悟 先生（常葉大学）

（A306教室：11時00分～12時45分）

- ① 研修講師の実践の知識 —受講者の抱く2つのConfidenceを高めるために—
渡邊 規和（株式会社パーソル総合研究所）
- ② 実務教育領域におけるネガティブ・ケイパビリティ(1) —対人支援実務においてなぜ必要でどう活かすべきか—
田中 稔哉（株式会社日本マンパワー）・
五十嵐 篤（アンドリッツ・ファブリック&ロール株式会社）・伴野崇生（慶應義塾大学）
- ③ 実務教育領域におけるネガティブ・ケイパビリティ(2) —グローバル人材への成長過程を支える「不確実さや不思議さ、懐疑の中にいることができる能力」—
伴野 崇生（慶應義塾大学）・
五十嵐 篤（アンドリッツ・ファブリック&ロール株式会社）・田中 稔哉（株式会社日本マンパワー）
- ④ ピアノ指導の実践から見る指導力についての考察 —知覚とメタ認知の視点を通して—
廣瀬 道代（社会構想大学院大学実務教育研究科）
- ⑤ 実践における意味づけの考察
小泉 雄（社会構想大学院大学）
- ⑥ プロンプトワークモデルによるリフレクションのあり方 —ユースワーカーの熟達に着目して—
佐渡 加奈子（社会構想大学院大学）
- ⑦ 激甚災害に備えた学校と地域防災の取り組み —リスク・レジリエンスに注目した学びの保障について—
江沼 英篤（社会構想大学院大学）

ポスター発表

※ 発表者は下記時間のうち、ポスター前に30分ほど立つようになしてください。
(廊下：13時00分～13時55分)

① 専門学校経営戦略を地方創生につなげる

日高 亜季 (和歌山コンピュータビジネス専門学校)

② 組織における対話の場の〈あいだ〉のデザイン —ソーシャル・キャピタルの概念を活用して—

伊藤 加奈子 (社会構想大学院大学実務教育研究科)

③ 外国人実務家教員面接採用時の留意点に関する考察

平野 宏司 (社会構想大学院大学実務教育研究科)

④ 柔道整復領域における「実務家教員」の実務経験はどのように教育に活かされているか

柏崎 保昌 (常葉大学)

⑤ 医療専門職養成校におけるリメディアル教育の実際

森山 伸一 (静岡医療学園専門学校)

⑥ 医療系学科の臨地実習前教育に映像を活用した学習アプローチの提案

中井 真悟 (常葉大学)

実務家に求められる教育力、教育者に求められる実務力

- 【登壇者】 <シンポジスト> 鵜飼 宏成 先生（名古屋市立大学）
川山 竜二 先生（社会構想大学院大学） ※ 基調講演をご参照ください。
<進行> 今永 典秀 先生（名古屋産業大学）

【登壇者プロフィール】

鵜飼 宏成 先生



1991年4月、(株)住信基礎研究所（現・三井住友トラスト基礎研究所）に入社し、複数の調査プロジェクトに関わる。2000年4月、愛知学院大学に転職し、経営学部教授、地域連携センター所長を経て、2019年4月より名古屋市立大学大学院経済学研究科教授（経営者コース担当）。10月より文部科学省・持続可能な産学共同人材育成システム構築事業「進化型実務家教員養成プログラム」実施委員長（継続中）、2022年4月より学長補佐を兼務（2023年度まで）。

現在は地域活性学会理事・副会長、特定非営利活動法人起業支援ネット理事、一般財団法人中部圏地域創造ファンド理事、一般社団法人環境政策対話研究所理事を担っている。

専門分野：アントレプレナーシップ教育の研究と実践、起業家論、ベンチャービジネス論
QRコード：リサーチマップ



今永 典秀 先生



2005年4月住友信託銀行、2012年12月東和不動産、2016年1月岐阜大学地域協学センター特任助教を経て、2019年4月より名古屋産業大学現代ビジネス学部、2021年4月より、経営専門職学科 専任教員（現職）。2024年4月 Co Innovation University（2026年4月開学予定）ボンディングシップ・アドバイザー。

実務経験を活かし、企業や中間支援団体の長期・プロジェクト型インターンシップ研究やアドバイス、大学における教育プログラム開発などを多数実践。社会的企業、NPOなどの外部アドバイザーなども担う。

主な著書に『長期実践型インターンシップ入門』、『企業のためのインターンシップ実施マニュアル』、『共創の強化書』がある。

専門分野：インターンシップ、地域連携、まちづくり
QRコード：リサーチマップ

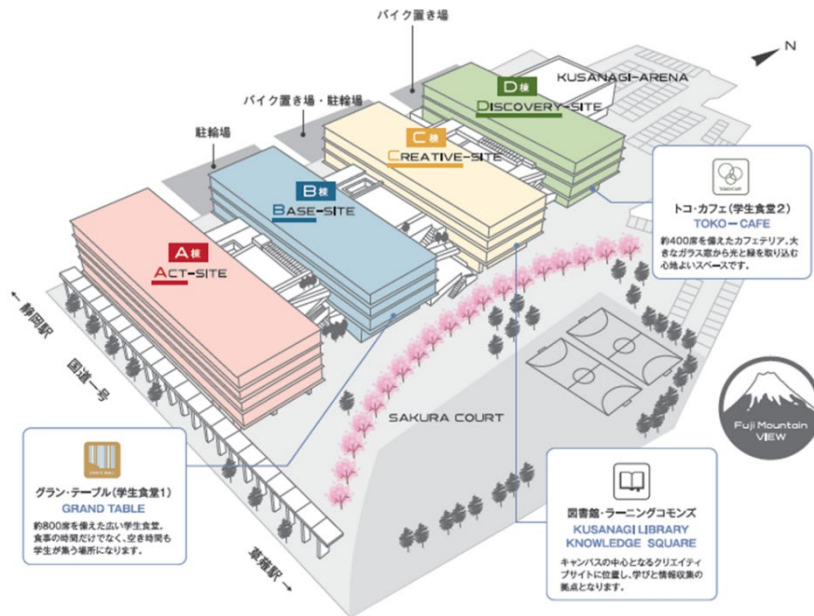


【趣旨】

本シンポジウムでは、「実務家に求められる教育力、教育者に求められる実務力」をテーマとします。実務家教員として、アントレプレナーシップ教育を中心に産学連携・地域連携を通して、多くの人材の養成に携わってきた名古屋市立大学の鶴飼先生にご登壇いただきます。近年は、実務家教員の養成に関連して「持続的な産学共同人材育成システム構築事業」（文部科学省）として採択された「進化型実務家教員養成プログラム(TEEP）」（中核校：名古屋市立大学）のプログラム実施責任者を務められました。特に、「実務領域診断カルテ（ポートフォリオ）」を開発し、実務家教員への調査を通して、実務教育に必要なエッセンス、実務家教員の特徴などを明らかにしています。後半は、鶴飼先生による話題提供と基調講演の川山先生の話提供を統合し、実務教育学会として「実務家に求められる教育力」「教育者に求められる実務力」の重要性や実務家や教育者の課題感などについて、今永先生の進行のもとパネルディスカッション形式で、議論を深めていきたいと考えております。

会場案内

- 常葉大学静岡草薙キャンパス 所在地：〒422-8581 静岡県静岡市駿河区弥生町6-1
- 大会会場は、④A棟3階です。 ※①～③にいる案内係の学生スタッフにお尋ねください（9:00-9:40の間）。
- 懇親会の会場は、当日ご案内いたします。



グラン・テーブル(学生食堂1)
GRAND TABLE
約800席を備えた広い学生食堂。食事の時間だけでなく、空き時間も学生が集う場所になります。

トコ・カフェ(学生食堂2)
TOKO-CAFE
約400席を備えたカフェテリア。大きなガラス窓から光と緑を取り込む心地よいスペースです。

図書館・ラーニング commons
KUSANAGI LIBRARY
KNOWLEDGE SQUARE
キャンパスの中心となるクリエイティブサイトに位置し、学びと情報収集の拠点となります。

6F	研究室	PC室	大学館	音楽室	実習室
5F	研究室	PC室	大学館	音楽室	実習室
4F	教室	大教室(300席)	大教室(400席)	大教室(300席)	大教室(400席)
3F	教室	大教室(300席)	大教室(400席)	大教室(300席)	大教室(400席)
2F	教室	大教室(300席)	大教室(400席)	大教室(300席)	大教室(400席)
1F	出入庫庫	学生食堂1(800席)	図書館	学生食堂2(400席)	クサナギ・アリーナ(30×44m) 天高10m

ACT-SITE
教室、研究室が入り、研究活動が活発に(ACT)行われる棟。

BASE-SITE
大学事務関連などが入り、常葉大学の基幹(BASE)となる棟。

CREATIVE-SITE
音楽室や理工系専用教室などが入り、学びの創造性にあふれる(CREATIVE)棟。

DISCOVERY-SITE
実験室などが入り、多くの発見(DISCOVERY)に出会える棟。

【委員略歴】

(五十音順)

五十嵐篤 (実務家)

アンドリッツ・ファブリック&ロール株式会社 代表取締役社長。MBA (英: Strathclyde)、実務教育学修士 (専門職)、キャリアコンサルタント、国際コーチング連盟ACC

日本企業、マレーシア企業 (現地)、米系日本法人を経て、欧州資本 (製造業) 日本法人代表を務める。現在は、経営職を担いながら、慶応大学大学院 (後期博士課程) にて、日本人のグローバル人材へのキャリア発達プロセスを研究中。また、キャリアコーチ、キャリアコンサルタントとして、キャリア支援・キャリア教育に関わる活動もおこなう。

柏崎保昌 (実務家教員)

常葉大学健康プロデュース学部健康柔道整復学科 (助教)。実務教育学修士 (専門職)、柔道整復師、介護支援専門員

整形外科医院での実務経験を有し、自身の接骨院を開業しながら大学教育に携わる実務家教員である。現在は公益財団法人 柔道整復研修試験財団 認定実技審査員も務めており、臨床現場と教育の往還を実践している。研究は柔道整復師養成校における実務家教員の教育実態を明らかにすることをテーマとしている。

上村英記 (実務家教員)

常葉大学健康プロデュース学部健康柔道整復学科 (准教授)。修士 (人間科学)、柔道整復師

整形外科医院での臨床経験を実務家教員として教育に還元している。学外養成校外部評価委員や静岡県国民健康保険連合会 国民健康保険等柔道整復療養費審査委員として業界を牽引するだけでなく、現在はキャンパス内のFDSD研修委員会委員長として活躍する。研究は言語化が難しいとされる臨床経験をテーマとしており、「大腿骨頸部疲労骨折compression typeの治療経験」などを報告している。

高島修 (実務家)

シティグループ証券通貨ストラテジスト。早稲田大学卒、実務教育学修士 (専門職)

三菱銀行 (現、三菱UFJ銀行) 入社後、為替資金部 (現金融市場部) で欧州担当アナリスト、米国担当アナリスト、通貨オプションセールスを歴任。シティバンク銀行へ移籍後、現在に至る。テレビ東京・モーニングサテライト、日経CNBC・朝エクスプレスのレギュラーコメンテーター。2005年から2006年には財務省主催の外国為替研究委員会で委員を務めた。

田中稔哉 (実務家)

株式会社日本マンパワー代表取締役会長。実務教育学修士 (専門職)、公認心理師、精神保健福祉士、1級キャリアコンサルティング技能士
企業の人事部・人事コンサルティング・学生の就職支援の現場を経て、日本マンパワーへ入社。CDA (日本初のキャリアカウンセラー養成講座) の開発、ジョブカフェのチーフキャリアカウンセラー・スーパーバイザー、企業の人材開発支援、高校・大学向けキャリア教育プログラム開発などに従事している。

中井真悟 (実務経験を有する教員)

常葉大学健康プロデュース学部健康柔道整復学科 (講師)。博士 (健康デザイン学)、実務教育学修士 (専門職)

柔道整復師、鍼灸師、あん摩マッサージ指圧師の実務経験を有する教員として医療専門職養成に携わる。研究領域は組織形態学 (解剖学)。本務校で柔道整復学・衛生学、他校で解剖学・生理学の講義を担当している。現在は、高校の生物学等から大学の解剖学・生理学等に学びが移行する医療学生の初年次教育について研究したいと考えている。

日本実務教育学会第4回大会プログラム

日本実務教育学会第4回大会実行委員会

委員長	中井	真悟
委員	五十嵐	篤
委員	柏崎	保昌
委員	上村	英記
委員	高島	修
委員	田中	稔哉

発行者 日本実務教育学会第4回大会実行委員会

問合せ先 日本実務教育学会事務局

〒107-8418 東京都港区南青山3-13-18 313青山ビル6階
社会構想大学院大学社会構想研究科 富井久義研究室内
MAIL : jsper@coep.jp